



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和5年(2023年)
11月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

これから求められる力

校長 垣内 幸太

あちらこちらから、楽器の音色やセリフの大きな声が聞こえてきます。学校の雰囲気も学習発表会モードになってきました。11月11日、今年は人数制限なし(完全入れ替え制)での開催になります。多くの方々のご参観をお待ちしています。

さて、教育現場にとどまらず、様々なところで「学力」とはなんだろうか、これからの社会において求められる力はなんだろうかということが話題になり久しくなっています。

学校では子どもたちにどのような学力をつければよいのでしょうか。ぱっと思い浮かぶのは読み書き計算や社会や理科の知識、英語力などでしょうか。いわゆるテストの点数で測ることのできる力です。しかし、いま求められている力は、こういった基本的なスキルや知識に留まらない力だと言われています。目まぐるしく変化していく社会において、正解のある問題の答えを素早く求めること以上に、正解のない問題に対して、みんなにとってよりよい答えをみんなでつくっていける力が求められています。となると学校においても、これまでの授業を変えていかねばなりません。

例えば…

- ・友だちとのトラブルの場面でどうすればいいか考える
→ただ正論を言うのではなく相手の様々な状況を想定してトラブル回避方法を仲間と考える
- ・円の定義を学び、円を描けるようになる
→ある場面から、みんなが平等になるためには中心から同じ距離であることが必要であることを考え、円の定義を紐解いていく
- ・わかりやすい文章の書き方のコツを知り、解説書を書く
→わかりにくい資料や不完全の文章、また仲間の書いた文章などをみんなで比較検討して、よりよい解説書にする

いずれも、今年度、校内の研究授業で行われた授業の一部です。共通しているのは一人ではなく、仲間と「ともに」課題を解決していることや知識を得ることのみにとどまらない授業であることです。本校は、大阪府教育委員会が実施する事業を受託しており、「確かな学びを育む学校づくり推進校」に指定されています。それを受け、「わかる・できる・楽しい授業」をテーマに授業研究を進めています。先ほど紹介したような「ただわかる」「ただできる」のみにとどまらない授業、仲間とともに学ぶことに楽しさや価値を感じられる授業をめざしています。その一環として、11月22日(水)には、他校の先生を招いての公開研究会も開催されます。

まだまだ道半ばですが、10年後、20年後の子どもたちの未来に思いを馳せ、我々教員も「ともに」学び合うことを続けていきます。みなさまにも、子どもたちの様子や参観などを通じてその変化を感じていただけるよう努力してまいります。今後とも叱咤激励、ご支援、ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。